

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳児保育Ⅲ Baby Care Ⅲ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修科目)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
乳児保育Ⅰ・Ⅱ、発達心理学Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」、「発達心理学Ⅰ」で学んだ乳児の特性や発達についての基礎知識を基に、より専門的で応用的な、乳児とその養育者への関わり方について学ぶ。その後の発達に関わる理論に触れ、特に、乳児期が敏感期である愛着については重点的に扱い、不適切な育児によって長じて発症する愛着障害についても触れるので、児童養護に関心を持つ学生にも受講して欲しい。</p>				
授業の目標				
<p>①愛着のメカニズムについて理解し、説明できるようにする。 ②乳児期の重要性を認識し、各種発達理論の相違を弁別した上で、自分の保育観に取り入れるようにする。 ③養育者の立場を理解しながら、支援の方法を構築できるようにする。</p>				
授業の方法				
主に講義形式で行うが、ワークやディスカッションも挿入される。単元終了時に、キーワード理解の確認のための小テストを実施する。期末考査はレポート提出で行う。				
学習の成果（学習成果）				
<p>(1)発達に関する知識を現実場面で活用できるよう、学んだことと身近な事象とを結び付けることができる。 (2)対象の状態に応じた支援についての心構えを持つことができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 乳児期の特徴			
第2回目	乳児のコミュニケーション能力：乳児の不安と母親からの働きかけ			
第3回目	愛着の発達：愛着とは 母子関係のはじまり 愛着と依存			
第4回目	愛着の発達：ボウルビーの古典的愛着理論 母子相互作用の展開と愛着の成立			
第5回目	愛着の発達：生後1年間の愛着行動 愛着の評価 インターナル・ワーキング・モデル 愛着スタイル			
第6回目	愛着の発達：ルイスの社会的ネットワーク理論 父子関係の発達			

第7回目	愛着の発達：保育園児と家庭児の愛着の発達の違い 愛着の生物学的メカニズム	
第8回目	対象関係理論：乳児期の母子分離 ほぼ良い母親とは？ 乳児の自我の発達	
第9回目	対象関係理論：乳児期の対象喪失体験 親子関係がその後の人生にもたらす影響	
第10回目	愛着障害：母親の不安と不適切な育児 愛着障害とは 事例研究	
第11回目	愛着障害：アダルト・アタッチメント・インタビュー 愛着スタイルの修正は効かないのか？ 愛着障害への支援を考える	
第12回目	養育者への支援：アドラー心理学的関わり① 認知の理解と変容 共同体感覚	
第13回目	養育者への支援：アドラー心理学的関わり② 目的論と勇気づけ ライフスタイル分析	
第14回目	養育者への支援：親子関係と保育者 (レポート提出)	
第15回目	健康な依存とは：乳児の依存が持つ意味 養育者の依存が持つ意味 実質的自立時に精神的自立を促す依存とは	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	20% 他者の話に真剣に耳を傾け、また、積極的にディスカッション・グループワークに参加し、講義や発表への疑問については臆さず質問すること。
	レポート	60% 授業で紹介した“乳児保育理論を踏まえた上で”、保育者としてどのように養育者を支援するか、その意気込みをレポートすること。
	調査報告書	
	小テスト	20% 単元終了時に、キーワード理解の確認のための小テストを実施する。
	試験	
	発表内容 (態度含む)	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書：特に購入指定しないが、他教科で既に購入している教科書の持参を求める場合がある。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。		